遺構　表土掘削に伴う遺構確認作業の際，石囲炉の跡と思われる石組みが検出された。本来，方形に組まれていたものと思われるが，東側は水道管敷設の際に受けた撹乱により破壊され欠損し，石組みがコの字形に残存していた。石組内部を調査すると覆土は明らかに火の使用を受け赤化しており，その後，縄文土器の破片が出土したのを見て縄文時代の竪穴建物跡の炉跡と判断した。竪穴の掘り込みそのものは後世の土地利用のため削平され，この炉のみが検出された状況と考えられる。ただ周囲には建物跡を構成していたと思われる柱穴が複数あり，そのため，それらを取り込んだ直径５ｍほどの範囲を建物跡と想定した。ピット（建物跡内ピット１～６）は概ね径 0.3 ｍ～ 0.4 ｍを測り，確認面からの深さは 0.3 ～ 0.6 ｍを測る。炉に使用された石には目立った被熱の痕は無かったが，取り上げの際，部分的に割れやすくなっていたことを考えると，炉は低い温度で長期間使用されたものと考えられる。

遺物　縄文時代の土器 14 点，石器台石１点，剥片石器４点，炭化物３点，合計 22 点が出土した。縄文時代の土器６点, 剥片１点（5007）を図示した。図示した縄文時代の土器は，五領ヶ台式（5001），勝坂式（5002 ～ 5004），阿玉台式（5005・5006）で，中期初頭から中期前半の縄文土器である。

２．遺構外出土遺物

遺構以外の遺物は，中・近世の土坑から土器７点，溝から土器１点，その他の遺構から土器 15 点，剥片４点，ピットから土器 11 点，石皿１点，剥片２点，Ⅲ層から土器 144 点，土製円盤１点，剥片 24 点，Ⅳ層から土器７点，剥片２点，撹乱から土器 11 点，剥片１点，表土から土器 82 点，石器・剥片６点が出土した。そのうち縄文土器は 81 点，石器は 14 点を図示した。縄文土器は前期末葉の十三菩提式土器（5008・5009），中期初頭の五領ヶ台式土器（5010 ～ 5021），中期前半の勝坂式土器（5022 ～ 5057），阿玉台式土器（5058 ～ 5074），中期後半の加曽利Ｅ３式土器（5075 ～ 5084），曽利式土器（5085），後期前葉の堀之内式土器（5086・5087），石器は，剥片（5090 ～ 5097），打製石斧（5098 ～ 5100），横刃型石器（5101），磨石（5102），スタンプ型石器（5103），石皿（5104）である。

第３項　古代の遺物

当調査地区からは古代の遺構は検出されていないが，土師器３点，須恵器３点が出土している。詳細は，中・近世遺構であるＬ 55- ＳＫ 127 から出土した土師器甕片が１点，須恵器瓶片１点，Ｌ 55 －ＳＫ 132 出土の須恵器瓶片１点，Ｌ 55 －ＳＸ 70 出土の土師器甕片１点, 遺構外の表土出土の土師器甕片１点, 須恵器瓶片１点である。いずれも小片であったため，須恵器瓶片（4001）のみ図示した。

中世以降の遺構覆土から出土した遺物は，二次的な要因により混入したものと推測されるが，近隣の既往調査でも報告されているように，当地域での古代における土地利用の痕跡と言える。